

なぜ、ごんはいたずらばかりするのか。

T この問題をていねいに考えてみたいと思います。

そのことを考えるために、P 5 5から5 6まで読んでください。

公美 朗読

C (同じところをめいめいで朗読)

T (板書)

夜でも昼でも辺りの村へ出てきて
いたずらばかりしていました。

どんないたずらをしたって書いてるかね。

有香 菜種がらのほしてあるのへ火をつける

公美 とんがらしをむしりとっていく

宣彦 畑へ入っていもをほり散らす

直也 もっとちがうこともあるんやけどな

勝仁 いろいろなこと

直也 あのな、火つけて火事にしたり

T 今直也がいうてること、わかるね。こんだけしたんじゃないね。

C いろいろ

T 「いろんなこと」て書いてあるんだから、ここに書き切れないぐら
い、まだいろんなことをした。

どうしてごんは、そんなに夜でも昼でも出てきてはいたずらばかり
するんだろう。

もういっぺん、自分で考えて。

こんどは、声を出さずに読んで、自分の考えを持つ。

C (すぐ何人か挙手。しばらく待つ。)

T じゃ、公美から。

公美 ごんは、いつも一人ぼっちで、いっしょの友達もいないから、一
人ですることがないから。

直也 あんな、よう似てるけどな、ごんは、一人ぼっちで、遊ぶ相手も
いいひんしな、ひまやしな、何したらいいかわからんさかい。

T (板書しながら)遊ぶ相手がいない。それからひま。

紗織 ごんは、いい友達がいないし、ひまでたいくつだから。

T (板書)たいくつ。友達がない。

智将 ごんは、一人ぼっちでさみしいから、いたずらをして楽しんでい
る。

由美子 ごんは、友達も兄弟もないから、一人で遊んでいるのみたい
くつだから、楽しんでる。

美由紀 一人ぼっちだから、なんか、いたずらしておこられる方がよい

T (板書しながら)ふーん。

優子 だれもおこつてもらえる人がいないからいたずらしておこつても
らいたい。

直也 なんでおこつてもらいたいの？ほの反対やな。

T なんか、ちよっとちがうのが出てきたぞ。

明代 なんか、いたずらして、おこられたりしたら、相手にされるから

一人ぼっちで何か遊んでいるよりも、相手にしてもらえない方がいい。

T 何か……今言うてやることわかる？みんな、おこられたらいやだね（Cうん）なのに、おこられてる方がいいんやて。

なつ希 さみしいから相手にしてほしい。

優子 ごんは、まだ小さいし、お母さんにおこってもらったことがないから、一回ぐらいおこられてみたい。

政義 ごんは、一人ぼっちだから、いたずらをしておこられるのが楽しい

政義 ごんは、あなの中でぼさつとしているよりか、おこられて、にげてるっていうか、ほの方が相手にしてくれるから。

T なんか、穴の中でぼさーとしているよりは、追いかけられたりする方が……

宏 いたずらとかをして追いかけられたりしてる方が遊んでるみたい。

T みんなは、今、山の中で一人ぼっちでいるよりは、て言ってますが、山の中のくらしってそんなにつまらないんでしょうかね。

山の中のごんのくらしってどんなのでしょうか。ごんは、どんなところに住んでいるのか、もう一ぺん読んでみよう。

C しだのいっばいしげった森の中

直也 おもしろいんちやう。しだのところやで。

T はい、ごんの住んでいるのは、

「しだのいっばいしげった森の中」（板書）

直也君が、ここんとこ、楽しいんちやう、ていうてますが、どうでしょう。

C……

C おもしろない。

紗織 さみしい。だれもいいひんし。

C 寒い。

由美子 草や木がいっばいしげっているし、穴の中やから、せまいし、

暗いから村の中へ行って……

T 穴の中はせまいし、暗いね。このまわりは？明るいのか？

「しだ」ってどんなところに生える、と書いていた？

C 日陰に生える植物

T （しだの生えるところについて説明）

日陰でじゅじゅしたところ、そんなところに生えている。

気持ちのいいところなんでしょうか。

C 悪い

宏 ほんなん日あたりへん。

T 気持ち悪いね。……どうしてそんなところに住んでいたんでしょうね。住みたくて住んでいるんでしょうか。

智将 人間とかに見つからん。

T 明代さん、どう。

明代 ……なんか、ごんは、いつも住みたくて住んだんじゃなくて、

しかたがないから……

智将 人間や動物におそわれたりする心配がないところだから。

人間の家の近くだったら、見つかったらすぐ殺されたりしてしまう

けど、ここは、見つかる心配がないから、殺される心配がなくてゆっくりできる。

T 今言うてやることわかる？……

ここは、じめじめしているということは、人が近付かないところとやね。だれも敵が来ない。だから、安全だ。でも、ここが住みやすいかと言ったら、気持ち悪いね。

狭くて、暗くて、じめじめしている。その穴の中にたった一人でいるそんなことをしてるなら、これ（いざずら）をしている方がまし。

なんで……村へ出てこなかったっていいじゃない。

大裕 村にはいっぱい人がいる！

村やったらいっぱい人がいやるでな。

T 「村」へ出てくる。村……人がいっぱいいる。

宏 いくら日当りのいいところでも、遊ぶ相手がいなかったらしようもないし、村は、日当りもいいし、人もいるでいい。

T どう……山の中で遊んでいたら楽しくなるんでしょうか、といったら、西津君はそうじゃないという。いくら山の中が気持ちよかったです。だけれどもいなりや楽しくもなんともない。

だから、人がたくさんいる村へやってくる。……宣彦君。

宣彦 山の中より、村の方が、人がいっぱいいるし、いざずらすものもいっぱいある。

T じゃ、さっきのここ、もういっぺん考えて。みんな、どう思う。

いたずらしておこられるのが楽しい。

いたずらをして、ほんとにごんは、楽しかったのでしょうかね。

C 楽しいない。

勝仁 ちよつとだけたのしい。

邦臣 楽しくない。

T 楽しくないね。おこられて。そんなの。

宏 ちよつとは楽しいけど、そんなに楽しいない。

紗織 いたずらするのは楽しいけど、後からおこられるのはかなん。

T 「楽しい」で、どういう楽しさなのかね。

うん？有香。

有香 いたずらするのはそんなに楽しいことないけど、相手にしてもらえたら楽しいなる。

T 相手にしてもらおうことが……

相手にしてもらいたいんだ……

明代 いたずらをして楽しいんじゃないやなくて、それよりも相手にしてもら

ってるのがごんにとって何か、楽しい。

治武 いたずらをしたら、人間とかがおこっておいかけてきたりしやる

さかい、ふつうやったら何も……。いたずらしたら相手してもらえ

る。

T 例えば、菜種がらに火をつけたらどうなるんでしょう。（C火事に

なる）火事になるね。村の人たちは、（Cおこる）大あわてで水もつ

てきてけさんならんね。

直也 ほうなんん見てるのが楽しいや。

T そんなの見てるのが楽しい。

畑のいも掘りちらしておくとうなるの。（大裕 全部金がばあに

なる）「あんちきしょうが。」ておこる。

そんなふうに、自分がしたこと、大騒ぎになったり、かんかんにな

っておこったりすることが、
紗織 ほんなことしたらよけい嫌われる。

T よけい嫌われるのにな。嫌われるのに。……

自分がしたこと、みんなが動いてくれる、そのことで、相手にな
ってらってるとして気がするのよね。

ほうすると、ほんとは、いたずらが好き、というよりも、ここ（一人
ぼっち）から来るみたいだね。

「夜でも、昼でも」……それだけさびしかったかね。（うん）

でも、こういうことをするごんを、村の人たちは、どう見ていたでし
ょうね。

C うらんでる

悟司 うらんでる。

勝仁 めちゃくちゃいやなやつやなあとおもってる。

T にくたらしいやつだなんてね。

じゃ、もう一度、ノートにこの問題について、みんなと話あったこ
とをもとにして書いてごらん。

【子どものノートから】

国寄祐子

ごんは、友だちもいないし、小さなきつねで、一人ぼっちだと、とてもさみしい。それで、だれでもいいから
あいてほしい。だから、わざわざ辺りの村まで出てきて、みんなに気付いてもらうおうと思っ
ていた。友だちがいるならば、ずっと森の中でいっしょに遊んでたと思う。

公美

ごんには、遊び相手もない。村へ出て人間としゃべりにいこうと思っても「きつねだ。」ていって
てっぼうをむけてうったりする。人間としゃべれないのだったら、いたずらで相手にしてもらおうと思っ
たのかな。

智将

ごんはいたずらが好きなのは、村の人に相手になってももらえるし、しだのいっぱいあった場所は
たいくつで村の人がこまるのが楽しいから。

邦臣

ごんは一人ぼっちでさみしいから、いたずらをして、村の人にごっこをやってもらおうつもりでにげ
てる

優子

私は、ごんは、さみしいので、昼でも夜でもいたずらをしてると思う。ごんは、おこられる相手
がないから、いたずらをしてる。ごんは、さみしいからいたずらをしてるだけで、ほんとはやさしい。

宣彦

それは、したくないけど、一人はさびしくて、何かしたくなって、することがいたずらしか
ないから、それで楽しもうと思った。いたずらを一回したらなれてきて、始めしたくなかったのが、
きゆうにもっとしたくなった。だから、いろいろなことがしたくなって、いたずらばかりして
る。

朝子

ごんは、一人ではさみしい。村へ行って、いたずらをするのは、いたずらは、やりたくてや
ってるんじゃないから、いたずらをしてもらえない。あいてにしてみたい。

由美子

私は、ごんがいたずらばかりするのし、友達もきょうだいもないから、相手にしてもらえないから、いたずらをして、おこられても、うらまれても、村の人に自分の名前を知ってもらいたかった。